

途上国に住む盲目の子供たちを支援する



認定NPO法人

ヒカリカナタ基金



ヒカリ届けます 遥かカナタまで

● 特集 ●

3年振りの海外活動 カンボジア・ベトナム





3年振りの海外活動 カンボジア・ベトナム

待ちに待った海外活動、メンバーは谷口、竹内直人、中川、岡田先生の4人。
今回はコロナ等を考慮し竹内理事長はお留守番となりました。



カンボジア(2023年2月18日~21日)

まずは、プノンペンから車で約1時間、ウドンにあるいつもコーディネーターをお願いしているジャパンハート小児医療センターへ。ここでは、日本から小児ガンの手術のために来られていた吉岡秀人先生とお忙しい中お会いする事ができ、2025年完成予定の新病院のことやヒカリカナタ基金の将来の活動のことについて貴重なお話を聞くことができ「是非とも新病院に小児眼科を！」とお願いしました。ここからジャパンハートの西川さんと合流して、車で約2時間

のタケオ州にあるカリタスタケオ眼科病院に向かいました。この病院は2019年から小児白内障の手術をコロナ禍にも関わらず継続して行ってくださっています。訪問は初めてです。いつもメールで詳細かつ誠実な手術報告を受けているのでどんな先生？どんな病院かな？と興味津々でした。手入れされた木々や花々があふれ、受付や待合も整然として清潔な病院で、院長先生をはじめとするスタッフの皆さんがとても温かく迎えてくださいました。想像以上に素晴

らしい病院でした。今回の手術は3人全員小児白内障。【スーライ】13歳男子 右眼 吸引+レンズ挿入手術 【アイネット】14歳女子 右眼 吸引+レンズ挿入手術 【9ヶ月男児】両眼 吸引のみ。5歳くらいでレンズ挿入予定。手術室に入り全員の手術を見学しましたが、9ヶ月男児は全身麻酔が必要なため、タケオ州立病院へ移動し、先生が機械を持って行っての手術でした。ポータブルの機械で最新ものではなく驚きましたが、先生の手術手技は素晴らしかったです。翌日には2人のガーゼ交換に立会い、視力の回復を確認しました。両親ともに、とても喜び感謝されました。9ヶ月男児も後日、手術成功と報告が届きました。次に今回、院長先生の計らいにより、私たちの寄付によって6ヶ月前に両眼の白内障の手術をした子どもの術後の様子を



見に行く事が出来ました。【サナー】9歳女子・小学3年生は、タケオ眼科病院から車で約90分の川の中州にある村に住んでいます。学校で席は一番前にしてもらっていて、手術前は読めなかった黒板や教科書の文字を読むことができるようになっていました。担任の先生によると、手術をしなければ特別支援学級に行く予定だったそうで本当に良かったとのことでした。放課後、彼女の家も訪問、おばあちゃんから「自転車に乗れるようになったし、明るくなった。以前はしなかった家事の手伝いをしてくれるようになった。」という喜びの声を聞くことができました。彼女は7人兄弟で直ぐ上の兄弟と祖父母と4人で生活し、

両親はタイにいるそうです。ここに来て実際に術後の子どもたちの生活を目の当たりにし、視力の回復が子どもたちの将来や性格にどれだけ影響を与えるかを実感し、この活動の重要性を改めて強く感じました。また私たちの訪問によって口コミが増え、この活動が広まり、一人でも多くの子どもたちの視力回復ができれば！と切に思いました。今回実際に会って顔を見て話すことの大切さも知りました。カリタスタケオ眼科病院の先生をはじめスタッフの皆さんに感謝し、これからも安心して子どもたちの手術をお願いできると強く感じる事が出来たととても有意義な活動でした。最後に、次回から皆さん一緒に活動しません



か！私たちはツアーを計画しており、カンボジアの歴史を知ったり、この感動を一緒に体験し、ヒカリカナタ基金の活動を広めていただければと思います。この後、一行は新しい国ベトナムへ向います。





ベトナム(2023年2月22日~25日)

ベトナムへの支援は今回が初めてとなります。現地での医療活動はフリーの眼科医、服部匡志医師にサポートしていただく形でスタートしました。「ベトナムの赤ヒゲ先生」の異名を持つ服部先生は20年以上現地でボランティア活動にまい進してこられました。その活動がNHKのドラマにもなり、なんと昨年9月には、アジアのノーベル賞と言われるマグサイサイ賞を受賞された素晴らしい方です。今回は残念ながらタイミングが合わず、現地でお会いする事はかないませんでした。しかし服部先生が普段から活動の拠点としているベトナム中部の

古都フエのアイ・ホスピタルの先生方が万全の態勢でサポートしてくださいましたので安心して現場の視察をする事ができました。アイ・ホスピタルの院長先生のご厚意でオペ中の手術室にも入れていただきました。幼い子供たちの小さな瞳に光が宿る瞬間は何度立ち会っても心が震えます。今回は6人の子供たちの手術を支援しましたが、その中でも印象的だったのがゲン君(6歳)です。フエから南に70km。海沿いの集落、フォーク村に生まれたゲン君は生まれつきの白内障で両目ともほとんど見えませんでした。しかし赤ちゃんの時に水

晶体の濁りを取り除く手術を。続いて今回、眼内レンズを入れる手術をすることで、とてもよく見えるようになりました。そんなゲン君が手術の翌日に絵を描いたのです。画材は私たちが日本から持って行ったクレヨンです。その日、ゲン君にクレヨンの箱を見せると、私たちの手から奪うようにもぎ取っていきました。そして箱の中に行儀よく並び色とりどりのクレヨンをしげしげと見つめるのです。それからなんと、そのクレヨンに向かって「ハロー」とかわいくあいさつしたんですよ。「ゲン君の未来は今までとは全く違うものになった。その未来は色とりどりの光で満ちあふれた世界だ!」そう確信して胸が熱くなりました。気が付くとゲン君はそのクレヨンをもものすごい勢いでスケッチブックにこすりつけていました。スケッチブックに色が付くのが楽しくて仕方ない様子でした。迷いなく躍動する手の動き。その手に握られたクレヨンの色彩。その色彩を見つめるまっすぐな眼差し。世界がはっきり見えるようになったばかりの、ゲン君の心の風景が、みるみるスケッチブックの中に浮かび上がっていきます。やがて美しくもカラフルでダイナミックなビジョンが現れました。観る人みんなが明るく元気な気持ちになれる、世界に一枚だけのアート作



品が、「あっ！」と言う間に完成したのです。

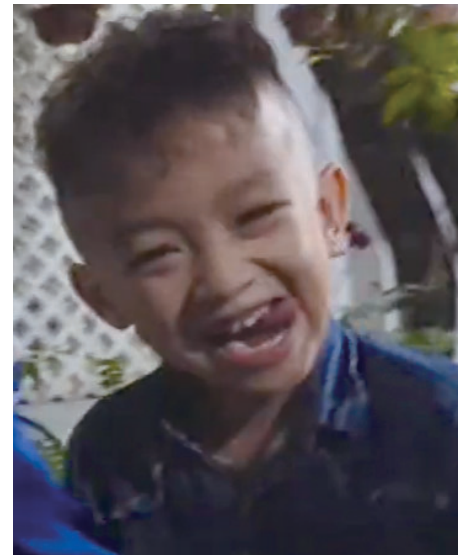
レンタルアート

ゲン君はこの日、一気に数枚の絵を描き上げました。そしてそれを全部、私たちにプレゼントしてくれたのです。それはゲン君の真心のこもった贈り物でした。「せっかくの傑作をこのまましまい込んでしまうのはもったいない。できれば多くの人に観てもらいたい。」という想いがふくらみました。そんな私たちの願いをかなえてくださったのが岡山県玉野市の「大野眼科」様。それから愛知県刈谷市の「豊田自動織機」様で

す。とてもありがたい事に、お二人ともがゲン君の絵を一枚づつレンタルしてくださり、それぞれ目立つ場所に飾ってくださる事を約束してくださいました。そればかりか、なんと！私たちの活動の支援として、絵のレンタル料金までくださったのです。これにはありがたくてありがたくてお礼の言葉もありませんでした。

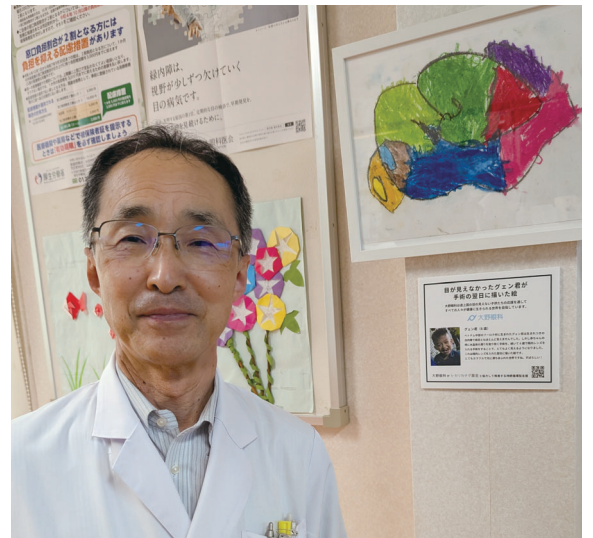
「目が見えるようになった子供が描いた絵が、次の子供の手術代になる。」この仕組みを繰り返す、持続循環型支援の始まりです。

そしてなによりうれしいのはゲン君にこの事を報告できる事です。



「誰かに助けられる事」と「誰かを助ける事」

子供たちがレンタルアートを通して、その両方を体験してくれたら素晴らしいですね。





「ヒカリカナタ基金」は今年もどんどん成長しています

認定 NPO 法人 ヒカリカナタ基金 理事長 竹内昌彦



本基金もご多分に漏れずコロナウイルスに邪魔されてここ3年ほど海外訪問はできませんでしたが、現地のスタッフの努力により主にカンボジアとキルギスで活動を続けてきました。一方、国内ではテレビ「開運!なんでも鑑定団」への出演をきっかけに大勢の人たちから支援をいただきました。そして、今年は「新千歳ロータリークラブ」から講演にお招きいただいた上に、クラブが1年間集めてこられた募金100万円以上を寄付していただくなど、支援の輪が広がっていることに大きな喜びを感じています。2月には待ちに待っていた海外活動がようやく再開となり、カンボ



ジアとベトナムの小児眼科医療現場を訪問することができました。国内の行事としては、今年も3月18日の「点字ブロックの日」を中心に二日間の記念行事を行うことができました。

3月18日には視覚障害者10名にボランティアとして参加して下さった高校生と大学生、それに基金の役員たちが加わって30名あまりが、原尾島にある点字ブロックの石碑から岡山駅までの約4キロを行進するエスコートウォークが行われました。駅周辺では5000個のティッシュやステッカー・チラシなどを通行人に配り、「点字ブロックの上に物を置かないように」と呼びかけました。年々参加して下さる若者が増えていくことを頼もしく思っています。翌3月19日は国際交流センターで記念の式典を行いました。この会では毎年点字ブロックの石碑の清掃活動を続けて下さる市立操山中学校と岡山盲学校に感謝状を贈呈するのですが、今年はさらに点字ブロックをテーマとして調査活動を行ったレポートが「おかやま新聞コンクール」で最優秀賞に輝いた

内田佳穂さん(当時小学5年生)にも記念品を贈りました。この会のメインは何といても大坂からお招きした藤野高明さんの講演でした。藤野さんは戦後間もな



くそれとは知らずに持ち遊んでいた不発弾の爆発で両目と両方の手首から先を失われましたが、唇で点字を読むことを覚えられ社会科の教師となり、障害者運動をリードされてきた方です。80歳を過ぎたという年齢を感じさせない若々しいお声で淡々と話されましたが、真剣に平和を求めるとお話の内容に参加者全員が感動するひと時となりました。次は8月27日の「ヒカリをカナタに届ける日」の報告会です。今年は岡山県出身の落語家 春風亭昇吉師匠をお迎えする運びとなりました。これからも世界の平和と子どもたちのために力を合わせて楽しく進んで行きましょう。

これまでに625 人の子供達の目が見えるようになりました。

国名	キルギス	ネパール	モンゴル	ミャンマー	カンボジア	ベトナム	合計
人数	158人	21人	5人	16人	419人	6人	625人



「表町商店街に点字ブロックを〜！」

これを目標に、私たちヒカリカナタ基金、岡山市都市整備局、表町商店街連盟(中之町・下之町)は2020年から約2年間、月に1度のペースで勉強会を開催して来ました。その間2022年10月17日～11月13日までの約1ヶ月間、商店街の点字ブロック設置箇所にテープを貼り、設置後を想定した社会実験を行いました。自転車の通行規制、ベンチや看板等の設置場所の移動、宅配便など荷物の通行時間規制など様々な方面からの協力を得て進めていきました。また11月3日～5日には大せいもん払いが行われ、点字ブロックの上にワゴン等が置かれるため、視覚障害者が安全に買物や移動が出来るように、誘導ボランティアを募集しました。直ぐに約80人もの応募があり、その多くが学生さんで、若い世代にこの活動が広がることもとても嬉しかったです。社会実験中、買い物客、通行人、商店街店主、ボランティアなどからアンケートを集め岡山市に提出し、その結果、市議会で、2023年度中に表町商店街に点字ブロック設置の方針決まりました!岡山市は点字ブロック発祥の地であり、商店街でも点字ブロック設置を進め視覚障害者にとって安全で安心できる街の全国モデルとなっていって欲しい!と思っています。



「エスコートウォーク」

点字ブロックの日である3月18日に、3年越しで初めて行われたエスコートウォーク、視覚障害者とエスコート者が一緒に原尾島交差点から岡山駅を目指しました。幼稚園児から大学生まで30人の学生ボランティアが参加してくれました。視覚障害者一人に学生さん3～4人が順番にエスコートしました。安全に注意して点字ブロックの大切さをアピールし声掛けしながら約4Kmを歩き、無事に岡山駅に到着しました。今回の活動で明らかになった問題点としては、点字ブロックが途中でなくなっていたり、壊れていたり、小さい交差点では点字ブロックが途切れていたりということなどありました。しかし今回歩いたルートでは点字ブロックの上に自転車や物が置かれていることは全くありませんでした。これに関しては、私たちの活動の効果が広がってきているのかな!と嬉しかったです。視覚障害者の方々も、学生さんと話しながら楽しく安心して歩けたと感じ、今どこを歩いているか教えてもらえたり、段差や信号があることを注意深く誘導してもらえたことを喜ばれていました。私たちは、この活動を毎年継続して行い、点字ブロック設置を広げていくアピールと共に視覚障害者の方々とのふれあいを大切にしていきたいと思っています。



2022年度活動報告

2022年 6月13日	●認定NPO法人ヒカリカナタ基金 第6回通常総会
2022年 8月 2日	●開運！なんでも鑑定団に出演（テレビ東京）
2022年 8月25日	●「ヒカリをカナタに届ける日」登録
2022年10月23日	●美術工芸品チャリティーオークション
2022年10月17日～11月13日	●表町商店街 点字ブロック設置のための社会実験に参加
2023年 1月12日	●第81回山陽新聞賞【社会功労】受賞
2023年 2月18日～2月24日	●カンボジア、ベトナムで活動
2023年 3月18日・19日	●点字ブロックの日制定記念啓発活動、記念式典、記念講演会

会計報告

2022年活動計算書

2022/4 /1～2023/3/31

経常収益

受取会費	295,000
受取寄付金	35,956,916
合計	36,251,916

事業管理費

人件費	0
その他経費	3,033,757
総事業費合計	13,830,945

事業費

キルギス事業費	3,102,675
カンボジア事業費	4,717,757
モンゴル事業費	2,640,000
点字ブロック事業費	336,756
事業費合計	10,797,188

運営管理費

人件費	0
その他経費	1,603,680
当期正味財産増減額	20,817,291
前期繰越正味財産額	9,890,448
次期繰越正味財産額	30,707,739

賛助会員募集中！

皆様からの寄付金が集まって、子供達の目の手術代となります。皆様のあたたかい思いやりをひとつに結集して、できるだけ大きな支援を目の不自由な子供達に送り届けましょう！下記の年会費を納入していただいた時点で賛助会員となりますが、翌年以降の継続、退会は自由です。

後日、メールか郵送で活動報告の広報誌等をお届けします。

※また年会費以外に、通常の寄付も随時受け付けておりますので、同じく下記窓口からよろしくをお願いします。

年会費
個人の方 (1口)3,000 円/1 年間
法人の方 (1口)5,000 円/1 年間

※法人様はできれば2口以上からお願いします。

毎月の寄付も可能です

金額はいくらからでも構いません

認定 NPO 法人ヒカリカナタ基金への寄付は税制上の優遇措置が受けられます。

下記のいずれかの窓口でお振込みください。

銀行 金融機関

ゆうちょ銀行
お振込みのご案内

■ ゆうちょ銀行もしくは郵便局からの場合
 ゆうちょ銀行
 振替口座
 口座記号番号：01380-4-106091
 口座名義：特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金

■ 他の銀行、金融機関からの場合
 銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード9900）
 店名：一三九（イチサンキユウ）（店番139）
 預金種目：当座
 口座番号：0106091
 口座名義：特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金

インターネット

■ 「ヒカリカナタ基金」ホームページから。



www.hikarikanata.com

電子決済



PayPayをご利用の方は必ず入金情報を事務局までお知らせください。
 <金額、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、メールアドレス>
連絡をいただけない場合、どなたからの入金か不明となります。
 ヒカリカナタ基金事務局の連絡先は下記参照ください。



認定NPO法人
ヒカリカナタ基金

◎事務局

〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-11
 Tel：086-242-3535 / Fax：086-242-3311
 E-Mail：npo@hikarikanata.com

www.hikarikanata.com

ヒカリカナタ基金



竹内昌彦「ヒカリカナタ基金」
www.facebook.com/hikarikanatakikin



竹内昌彦
twitter.com/masahikotakebot

- ポスターの掲示場所、募金箱設置場所を募集しています。
- 点字の広報誌もあります、ご希望の方は事務局にご一報ください。